

## はじめに

近年、わが国の交通事故による死者数は減少傾向にあるが、死傷者数、死傷事故件数は依然として増加傾向にあり、交通事故の削減はわが国にとって喫緊の課題である。

平成 16 年の交通統計<sup>1)</sup>によると、交通事故の総死傷事故件数のうち、約 56%が交差点内とその付近で発生している。また、交差点で発生した交通事故件数の全日に対する夜間の比率は、死傷事故が約 28%であるのに対し、死亡事故では約 48%となっている。これらのデータから、交差点は非常に事故が多く、特に夜間は重大事故が発生しやすい状況にあることがわかる。

夜間交差点での交通安全対策としては、交差点照明施設の整備が挙げられ、その効果はドライバーからの視認性を高めることにより交差点内の状況をいち早く認識させることができることである。しかし今のところ交差点照明を適切に整備するための具体的な明るさの規定が示されておらず、光源、照明器具、照明施設の配置等の選定は設置者の判断に委ねられている。

本研究は、これらの適切な選定が行われるために、路面照度や照明施設の配置、光源の種類の違いがドライバーからの視認性に及ぼす影響等の知見をまとめ、照明要件を検討したものである。検討にあたっては道路管理者、学識経験者、照明施設設置業者等の意見を踏まえながら現道での実現性も含めて総合的に検討を進めた。

交差点照明施設の整備において、整備箇所の道路交通状況に応じた、光源、照明器具、照明施設の配置等の適切な選定に本資料が活用されることをここに期待する。